

シャインマスカットは全国で栽培面積が拡大している品種で、果物売れ筋ランキングにおいても上位に位置するなど、消費者からの人気も高いブドウです。こうした中で、産地間競争のさらなる激化が予想されることから、山梨県産果実の有利販売を進めるために、高品質・安定生産を実現する技術的な対策が求められています。

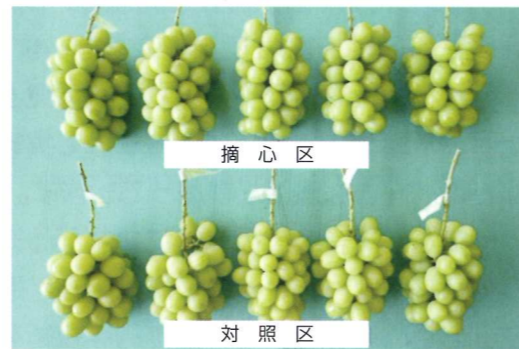
シャインマスカットの品質面において、課題とされているのが果粒肥大不足です。ボリューム感たっぷりの大房ブドウに仕上げるためには、果粒肥大を促進することが重要であり、喫緊の課題となっています。

そこで、果樹技術普及センターでは県内各地に実証ほを設置し、果粒肥大の一つの方法として、摘心処理による果粒肥大効果について検討しました。房づくり時に摘心をしないものを対照区とし、強い摘心（展葉枚数11枚での摘心）を行うものを試験区として、果実肥大への影響を検討しました。その結果、摘心処理によって約13%の肥大効果があることが確認されました。

果樹技術普及センターでは、今後も引き続きシャインマスカットの品質向上に向け、試験研究機関と連携する中で果粒肥大対策に取り組んでいきます。



展示ほにおける摘心処理（平成24年）



摘心処理の調査果実（平成24年）

いつものチェック忘れていませんか！ 農薬は十分注意して正しく使いましょう

農作物を安定して生産するためには、殺虫剤や殺菌剤、除草剤などの農薬が使用されます。

食品衛生法では、農薬の残留基準が成分や食品の種類ごとに定められています。

その基準値を超えた食品は、流通が禁止されることになっているため、農薬の使用にあたっては、十分に注意をしなければなりません。

まず始めに、農薬のボトルや袋には、使用ができる作物の名前、使用量や濃度、使用時期や回数などが書かれています。使用前には、これらの使用方法を必ず読み、正しく理解した上で使用しましょう。

次に、使用する際には周囲の状況や風の状態を十分に確認して農薬が飛散しないように注意し、近隣の農作物等に農薬が残留しないように注意をしましょう。

農薬を使用する時は、マスクや手袋、ゴーグル、防除衣等を着用し、作業が終わった後は散布器具をよく洗浄し、手などもよく洗いましょう。

また、農薬使用後は日時や使用した農薬名、希釈倍率や使用量などの散布記録を必ずつけ、薬剤は鍵のかかる場所に適切にしまいましょう。



今年も稲絵アートを実施しています 北杜市の小学生が「カルチャくん」に挑戦

北杜市小淵沢町では、色の異なる稲を田に植えて絵や字を描く「稲絵アート」に本年も取り組んでいます。本年は、県内で実施されているやまなし国民文化祭事業の一環として実施しており、文化祭のマスコットキャラクター、「カルチャくん」の図柄や「旅立」という言葉を浮かび上がらせることになりました。

5月29日には、地元小淵沢小学校5年生の児童50名が絵や字となる部分に紫色の稲の苗を植付けました。小雨が降るあいにくの天気でしたが、子供たちが「冷たい」「気持ちいい」などと歓声を上げながら、楽しく作業する姿が印象的でした。

7月上旬頃からは緑と紫、9月頃から収穫までは黄色と紫のコントラストを楽しむことができます。

みなさんも一度現地に足を運んでみてはいかがでしょうか。



やまなし国民文化祭
マスコットキャラクター
「カルチャくん」



指導者のもとで児童が説明を聞いています。



稲で「カルチャくん」と「旅立」の文字を作ります。



平成24年に実施の「稲絵アート」



いざ植付け！



■中央自動車道…小淵沢ICから車で3分
■中央本線…小淵沢駅から車で10分

病害虫防除所からのお知らせ

山梨県病害虫防除所（総合農業技術センター調査部）では、ホームページをリニューアルし、病害虫発生予報や病害虫防除に関する資料、農業関連情報などを提供しています。

今回のリニューアルでは、病害虫の写真や病害虫防除基準を新たに掲載して利用者の利便性を向上させていますので、どうぞご利用ください。

ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/index.html>



山梨県病害虫防除所（総合農業技術センター調査部）のホームページ画面

新たな力でトマト産地を活性化



梨北農業協同組合で行われた担い手支援会議

中北地域普及センターでは、県内有数の夏秋トマト産地の維持活性化のため、JA梨北高根支店と連携し、担い手の確保に向けた研修受け入れ体制の構築と、就農後の経営安定化方策の検討を進めています。平成23年度以降に受け入れていた研修生4名が当地域に就農し、本年度も新たに2名が研修を開始しています。

また、昨年度、研修生の受け入れや、就農に関する様々な課題について検討するため「担い手支援会議」を設置しました。

会議では、就農後の課題として農閑期における所得確保が挙げられ、経営品目を検討したところ、ふかし栽培によるアスパラガスとウドが有望であることを確認し、就農者への導入を進めていくことにしました。

今後も、担い手支援会議を核として、産地を支える新たな担い手づくりに取り組み、夏秋トマト産地の活性化を図ります。



農閑期の所得確保を目指したアスパラガスのふかし栽培

笛吹市の援農者育成に向けた取り組み

峡東地域の果樹産地では、高齢化や兼業化などで労働力が不足している中で、個々の経営や産地を維持していくためには農繁期に質の高い労力を安定して確保する事が重要です。

このため、笛吹市では、果樹農家の労力要請に対応できる人材育成や援農体勢の整備に積極的に取り組んでおり、その一つとして笛吹市援農支援センターとJAふえふき営農支援センターが中心となった援農者向けの果樹栽培技術講習会を開催しています。

講習会では、普及センターやJAの関係者が講師となり、モモ、ブドウ等の主な管理技術について実習を交えて指導する他、昨年から指導農業士による剪定指導も行われ、援農希望者や新規就農者の実践的な技術習得の場となっています。

これからも普及センターでは、市やJA等関係機関と連携し、地域に適した援農システムの検討や担い手育成に向けた取組を推進していきます。



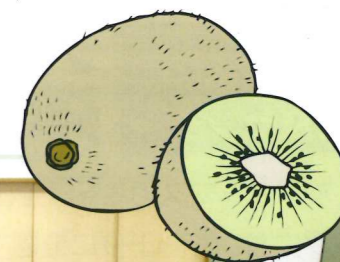
JA関係職員、普及センター職員による桃の摘果技術の実演



援農希望者・新規就農者を対象にぶどうの新摘管理や房づくりの実演



「次代の担い手への果樹基礎学習会を開催しています」



今年度、峡南地域普及センターでは、市川三郷町、JA西八代と協力し、地域の特産果樹であるキウイフルーツとブドウ（大粒系）の栽培技術の基礎について分かり易く学ぶ学習会を開催しています。

「将来農業を行いたいが、平日は勤めているため講習会に出られない」「今は見よう見まねで実家の農業を手伝っているけれども、基礎的な技術をしっかり学びたい」といった意向をもつ、今後農家を継ぐ人たちを対象に、市川三郷町大塚地区で参加者の募集を行ったところ、13名の受講希望者が集まりました。

4月6日に第1回学習会を開催し、5月までにキウイフルーツでは4回、ブドウでは2回学習会を行いました。

参加者からは毎回多くの質問や意見とともに「疑問が解消された」、「興味を持った技術について実家の圃場で試してみたい」などの前向きな感想が挙がっています。

今後も参加者の技術修得につながる充実した学習会を行い、スムーズな就農が図れるよう次代の担い手を支援していきます。現在、お勤めをされていて、基礎的な技術を学びたい方や普段の農作業で疑問等ある方はいつでも当普及センターにご連絡下さい。



多くの質問が出された果樹基礎学習会



キウイフルーツの基礎学習会

高冷地に向くタマネギの作型を検討しています



今年2月は種のタマネギ試験栽培

タマネギ苗の植え付けは通常、秋に行いますが、富士・東部地域は冬期の寒さが厳しいため、土が凍り苗が浮き上がって根が切れ、株が枯死したりその後の生育が思わしくないことがあります。

そこで、富士北麓の野菜生産者でつくる富士山野菜生産者協議会では、総合農業技術センターの試験成果として発表した「春まき夏どり」の作型を試験することにし、富士・東部地域普及センターが支援しています。

昨年、標高別に7地域で試験栽培を行ったところ、標高の高いほ場ほど生育の良いことが分かりました。

今年は、生育良好だった4地域（忍野村、富士河口湖町勝山・河口、富士吉田市）で、地域に合った播種や定植の時期を検討しています。

昨年の試験栽培の結果から、新たに栽培を始める会員も現れています。また、収穫物は地元の学校給食にも使われました。

生育不良の原因となる冬期の寒さに当たらず栽培管理期間も短いため、今後、栽培する会員が更に増えていくことが見込まれます。



春まき夏どりタマネギ収穫検討会（平成24年）